4 AI を活用した開発技術

生成AIの活用をグローバルで推進する体制「Global Generative AI LAB」を整備

汎用的で高い能力を発揮できる生成 AI の技術が進展しており、ビジネスへの組み込みが急速に進んでいる。NTT データグループは、生成 AI の活用をグローバルで推進する体制を整備し、NTT グループの自然言語処理 R&D の結果も活かしながら、「積極的な生成 AI 活用の推進」と「AI ガバナンス徹底」の両輪で、迅速かつ安心安全な生成 AI の提供に取り組んでいる。

生成 AI 活用の想定ユースケースと様々なリスク

生成AIは、その強力さゆえに、様々なユースケースでの活用が始まっている。高品質な文章を生成でき、言葉による指示が可能で、複数用途に転用できる強みがあるため、検索やオフィス製品、クリエイターツールへの組み込みを中心に、ソフトウェア開発や営業・事務・企画など多岐にわたる職種で、ビジネスの生産性向上に役立てる動きが起きている。

一方で、活用にあたり各国の法規制に加えて倫理・社会受容性への配慮が必要であり、利便性とリスクを併せ持つことが特徴となっている。

NTT データグループの生成 AI に関するこれまでの取組状況

まず背景として、2020 年頃に NTT メディアインテリジェンス研究所が日本語の NTT 版 BERT を開発した。NTT データグループは、これを元に金融ドメインに特化した金融版 BERT を開発・提供すると共に、審査業務への自然言語処理 AI の活用や文書読解 AI ソリューション「LITRON」の提供など、お客様業務への技術適用を進めてきた。また、2022 年に AI アドバイザリーボードを立ち上げ、2023 年には AI ガバナンス室を立ち上げ、リスクへの対応準備も進めてきた。

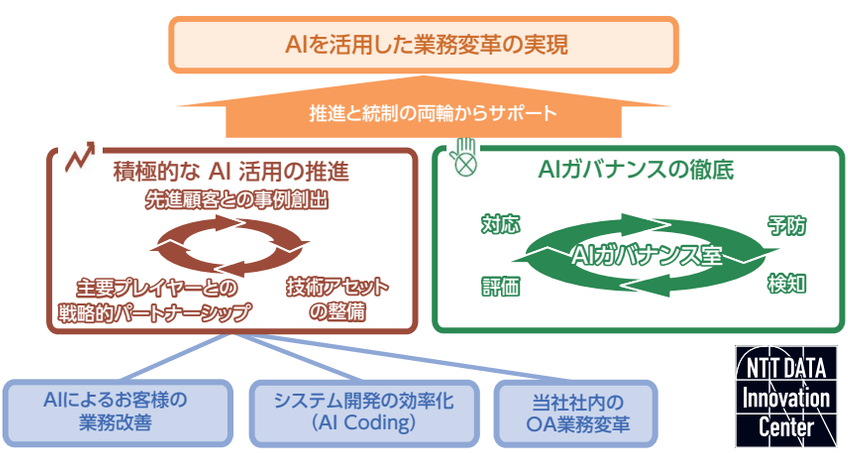

図 1　NTT データグループにおける生成 AI の取り組み全体像

株式会社 NTT データグループ
技術革新統括本部　技術開発本部
イノベーションセンタ
課長　河村 雅人氏

「積極的な生成 AI 活用の推進」と「AI ガバナンス徹底」の両輪で活動を加速する体制を整備

お客様の業務変革を実現するため、NTT データグループは生成 AI の活用を更に積極的に拡大していくと共に、AI ガバナンスを強化する。この動きをグローバル全体で連携して推進するため、技術開発本部イノベーションセンタが中心となり、2023 年 6 月 29 日に、生成 AI の活用をグローバルで推進する体制「Global Generative AI LAB」を設立した（図 2）。なお、イノベーションセンタは、グローバル 6 か国に拠点をもち、先進技術を見極め、お客様との共創 R&D を通じて新たなビジ

ネス創出に取り組む組織である。

Global Generative AI LAB では、ソフトウェア開発分野の主幹部門、社内システム担当、R&D 部門、AI ガバナンス室など多数の組織と連携し、４本柱の活動で、NTT データグループ自身とお客様のバリューチェーンを変え、迅速かつ安心安全に生成 AI を提供していく（図 3）。

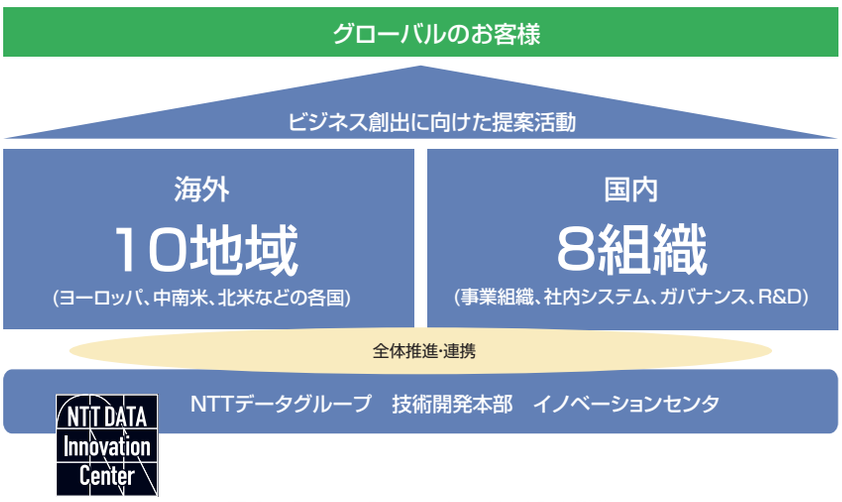

図 2　Global Generative AI LAB を整備

Global Generative AI LAB の活動 4 本柱

1「自社ValueChainの変革」では、ソフトウェア開発分野に生成AIを適用する。開発者が不足している領域（例えばCOBOL等）や、要件定義・設計・製造・試験といったソフトウェア開発全般に生成AIを適用し、様々な課題の解決を図る。例えば、ソースコードから設計情報を復元、あるいはテストシナリオを生成するような使い方を想定している。

ソフトウェア開発ツールの主幹部門では既に生成 AI の活用検証を開始しており、複数のプロジェクトで利用可能なアセットを用意し、システム開発案件への適用を進めている。併せて、生成 AI の活用を考慮した工程管理や品質管理手法を含む次世代の開発プロセス整備に着手し、グローバルで標準利用できる環境をめざしている。

2「お客様ValueChainの変革」では、各クラウドベンダやOSSが提供する商用利用可能な生成AIツールやNTTが開発した生成AIモデルを対象に検証とノウハウ・ナレッジ蓄積を行い、お客様へ最も有効な生成AIモデルとユースケースを提供可能な状態を用意する。特に、各業界やお客様との共創を通じて特化型生成AIの提供をめざす。

3「共通PFの提供」では、お客様にすぐにソリューションを提供できるプラットフォームの整備をグローバルで進める。具体的には、ユースケース／展開地域に応じたソリューションの整理と、各国の拠点が持つ既存ソリューション（Dolffia・eva・LITRON等）への生成AI組み込みを進め、グローバルに共有・展開していく。

4「戦略・ガバナンス」では、積極的な生成AIの活用推進と対になる重要な活動として、生成AI活用に対する社内ガイドライン整備を進める。これにより、情報セキュリティ、知的財産、倫理といったリスクをグローバル全体で抑制していく。

自社ValueChainの変革	お客様ValueChainの変革	共通PFの提供	戦略・ガバナンス
生成AIのソフトウェア開発分野への適用	ラボ活動を通した顧客との共創を推進	各拠点が持つソリューションの展開	ガイドラインの策定とグローバルガバナンス体制
生成AIを利用したソフトウェア開発の変革	お客様業務に即した生成AI活用のナレッジ	生成AIソリューションのグローバル共有・展開	生成AIの活用に向けたガバナンスへの対応
開発者が不足する領域	ベンダ製品,OSS活用	チャットボット	生成AIガイドライン
ソフトウェア開発領域全般	NTTの生成AI	ドキュメント検索	グローバルでの共通対応
著作権・知的所有権対応	基盤の提供	ナレッジ管理	お客様プロジェクトへ適用

図 3　Global Generative AI LAB の活動 4 本柱

上記４本柱の活動を通じて、今後需要が見込まれる生成 AI 分野において、お客様のビジネスの革新をめざし、ノウハウ蓄積と共創活動をグローバルで進めていく。